

11月には20度を越える日がありましたが  
さすが師走に入り、寒い日が多くなりました。  
南の国から日本にやって来た留学生の皆さんは  
風邪など引かず元気に勉強しているでしょうか。



## ◆ 自信を持って留学生を迎え入れましょう

この夏、新聞紙上で、定員を大幅に超える留学生を入学させ、100人以上が在留資格を更新できずに退学となった専門学校の問題が報道されました。この問題に端を発した新聞報道の中には、専門学校について誤解があることを懸念しています。報道では「学生の大半が外国人である専門学校が存在する」「学校教育法では『外国人を専ら対象とするものを除く』と規定されているはずだ」というものです。

この件に関し、執行役員会で、歴史的な経緯に詳しい武田哲一副会長を中心に話し合いました。その会で、こうした誤解は、そもそも専門学校が誕生した当時の主旨が理解されていないことから生まれている、ということになりました。

歴史を正しくたどると、専修学校は、昭和51年（1976年）に施行された学校教育法第124条によって『第1条に掲げるもの以外の教育施設で、職業若しくは实际生活に必要な能力を育成し、又は教養の向上を図ることを目的として、組織的な教育を行うものは、専修学校とする。』と位置づけられました。そしてそこには、『我が国に居住する外国人を専ら対象とするものを除く』とあります。しかしこれは「留学生」を指すものではなく、「外国人学校」を除くという意味です。

当時10年ががりで専修学校法案の成立に尽力した大沼淳会長は、当時を振り返り「外国人学校は、専修学校の制度の中に入ることに抵抗したため、念願の法案を成立させるためには、残念ながら除外することを認めざるを得なかったのです。」と語っています。繰り返しますが、この除外規定は「外国人学校」を対象にしたもので、「留学生」を対象にしたものではありません。

これまで行政は、同法を曲解し、専門学校に対し留学生教育への不合理な総量規制を行ってきました。しかし、日本のグローバル化がこれほど進み、留学生の受入れにおいて、専門学校がますます大きな役割を期待されている今こそ、正しい理解に基づいた基盤整理が必要である、と執行役員会で話し合いました。

会員の皆さん、これからも質の高い教育を目指し、自信を持って留学生の皆さんを迎え入れていきましょう。

## ◆ 基本法案に「専門学校・各種学校」が明記される

12月3日（火）超党派の日本語教育推進議員連盟の第11回総会が衆議員議員会館・多目的ホールで開かれ「日本語推進基本法案」の文言が確定しました。この法律案が提出される理由は「多様な文化を尊重した活力ある共生社会の実現に資するため、日本語教育の推進に関する基本理念を定める」というものです。



▲左から馳浩事務局長、中川正春会長代行、河村建夫会長

この基本法案の文言について、日本語教育の中核的役割をはたしている「専門学校・各種学校」をはっきり位置づけるよう6月21日付けで「要望書」を提出したことは、ご存知の通りです。 【添付資料1】

こうしたことを受け、総会で示された法律案では、連携の強化の項の第7条の中で次のように謳われました。

日本語教育を行う機関（日本語教育を行う学校（学校教育法第1条に規定する学校、同法第124条に規定する専修学校及び同法第134条第1項に規定する各種学校をいう。）を含む。）

これによって、日本語教育が適切に行われるためには、私たち専門学校・各種学校の存在が大学と並んで大切であると認められたこととなります。 【添付資料2】

会場では、議員や出席した団体と法制局との間で質疑応答や意見交換が行われました。全専日協からは深堀和子副会長・池田俊一監事が発言しました。この法案が真に実行力のあるものになるのか、これから検討が必要な点もあります。



▲質問に立つ深堀筆頭副会長（左）と池田監事（右）

▲佐藤監事、深堀筆頭副会長、古屋理事、池田監事

この法案は来年の通常国会で成立を図りたいという説明がありました。全専日協としては、これまでと変わりなく、留学生に対する日本語教育の質を高めていく立場から発言していこうと思います。会員の皆さんには新しい情報が入り次第お伝えしていきます。

## ◆ 第 31 回弁論大会 参加校決定！

2月15日に東京で開催される第31回の弁論大会に14校（あいうえお順）から参加の申し込みがありました。今年も充実した大会になるよう、がんばっていききたいと思います。

- ECC 国際外語専門学校（大阪）
- エール学園（大阪）
- 大阪バイオメディカル専門学校（大阪）
- 大阪 YMCA 国際専門学校（大阪）
- 大阪 YWCA 専門学校（大阪）
- 外語ビジネス専門学校（神奈川）
- 神戸 YMCA 学院専門学校（兵庫）
- 国際ことば学院日本語学校（静岡）
- 新宿日本語学校（東京）
- 専門学校湖東カレッジ（熊本）
- 日本外国語専門学校（東京）
- 福岡外語専門学校（福岡）
- 文化外国語専門学校（東京）
- 横浜デザイン学院（神奈川）



▲一昨年の様子



←沼津の日本語教育学会会場から

2018年12月19日  
全国専門学校日本語教育協会  
ニュースレター担当